

医王病院ニュース

患者さん一人ひとりに寄り添い、心のふれあいを大切にし信頼される医療を目指します。



尾山神社(金沢市)

冬号
第48号

平成31年1月15日発行

新年挨拶

療育指導室 入院患者さんへ想いを込めて～病棟行事を通して～
第5回筋ジストロフィー医療研究会開催報告

看護部 日本筋ジストロフィー看護研究会第6回学術集会を終えて
国立病院総合医学会

石川県立医王特別支援学校

外来担当表、病院案内図

新年挨拶

医王病院院長 駒井 清暢

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2018年は北陸地方の豪雪に始まり、日本各地で発生した自然災害が印象深く、世相を表す漢字に「災」が選ばれた事に頷かれた方も多かったのではないかと思います。幸い医王病院が被害を被ることはありませんでしたが、災害に対する備えの大切さを再認識することの多い年でした。

医王病院にとって2018年の大きな出来事は、外来管理棟工事の進捗と、10月に開催した第5回筋ジストロフィー医療研究会が挙げられると思います。この外来管理棟建て替えに際しては、限られたスペースで工事を進める必要があるために、多くの方に駐車場や病棟への移動などにご不便をおかけしており、大変心苦しく感じています。順調に工事が進めば2019年秋には新しい外来管理棟が出来上がり、供用開始の予定です。これで12年間に渡って続いた建物の更新は一段落します。聖書の言葉に【新しい酒は新しい革袋に盛れ】とありますが、新しい建物（革袋）が整うことでさらなる医療の充実を果たし、酒に例えては失礼かも知れませんが新しく次代を担う職員が着実に実力を蓄える一年であるよう願っています。

また昨年10月下旬に開催した筋ジストロフィー医療研究会には、「つなぐ筋ジス医療」をテーマに全国から300名以上の参加があり、ほぼ全病院職員による入念な準備と協力の甲斐もあって、活発な発表と質疑応答・意見交流ができました。医王病院にとってもこの研究会開催は意義深く、先に述べたような「新しい酒を新しい革袋に」と考えると、新しい人材（人財）が広く深い知識・スキルと視野を身につける絶好の機会となりました。

医療福祉を取り巻く環境は年々厳しくなるばかりですが、自らを常に革新できる医王病院であることをあらためて誓いたいと思います。

本年が皆さまにとって素晴らしい一年になるよう心からお祈り申し上げます。どうか本年も医王病院をよろしく願い致します。

入院患者さんへ想いを込めて ～病棟行事を通して～

療育指導室 保育士 川邊 祐樹

医王病院に足を運ばれたことのある皆様は、こんな光景を見たことはありませんか？

“病棟から素敵な音楽が聴こえてくる” “音楽に合わせて踊っている人がいる”

“お神輿をかついで病棟内を回っている” “和太鼓の大きな音が聴こえてくる”

そんな光景のほとんどは、契約入院の患者さんが入院している病棟やデイサービスで行われている季節毎の行事、お楽しみ会、誕生会での催し物です。ボランティアの方や、時にはその道のプロフェッショナルな方をお呼びしてパフォーマンスをして頂くことで、患者さんのQOLの向上を図ると共に、超長期に渡り入院生活を送る患者さんに少しでも喜んで頂けるよう、試行錯誤しながら開催しています。

昨年12月には、6病棟のクリスマスコンサートにシンガーソングライターの千寿(ちず)さんが来て下さいました。千寿さんは、テレビをつけていると聞かない日はない、というほど様々なCMソングを歌われている方で、自己紹介の際に少し歌って頂くと、患者さんやスタッフからも「あ～この曲！聞いたことある！」と、とても和



やかな雰囲気になりました。30分という短い時間ではありましたが、その透き通るような歌声で想いを込めて歌って下さり、とても癒される素敵なクリスマスプレゼントとなりました。また、歌を聴いた患者さんからは、

「真っ直ぐな歌声が心に響き、元気が出ました。是非また歌いに来て下さい！」と感動のお声を頂きました。

千寿さんが医王病院に来られたのは今回が初めてで「初めての病院というステージで、こんなに近い距離で歌うのは緊張したけど、とても良い経験になりました。是非また歌わせて下さい！」と、再び歌声を届けてくれることを約束して下さいました。

入院患者の皆さんは、病棟で行われる行事を楽しみにしておられます。そんな患者さんの声に耳を傾け、これからも楽しく、刺激のある行事を企画していきたいと思っています。



第5回筋ジストロフィー医療研究会開催報告

臨床研究部長 石田 千穂

医療社会事業専門職 中本 富美

2018年10月26日、27日に石川県文教会館にて「第5回筋ジストロフィー医療研究会」を開催しました。筋ジストロフィーと関連疾患の医療・福祉にかかわる300名以上の参加者を全国から迎え、活発なディスカッションと意見交換を行うことができました。



テーマは「つなぐ筋ジストロフィー医療」でした。「つなぐ」には、医療の進歩・発展への即応と貢献、多職種・多機関連携の充実、筋ジストロフィーにかかわるすべての専門職や支援者と当事者・家族のつながりなどを含む普遍的な意味があります。医療福祉体制に大きな変革が進みつつあるこの時期に、このテーマを掲げて準備から開催までを作り上げて参りました。

開会式では大会長駒井院長より、抄録集表紙をデザインして下さった水下尚輝さんのご紹介がありました。彼は何度もイメージを

練り直し、多くの時間を費やしてくださいました。出来上がった表紙は秋らしい柔らかい黄色を基調として、真ん中のフォルムの中に様々な想像を巡らせる文字のような模様が描かれています。多くの方が「これなんだろう」と感じられたと思いますが、一つだけの正解はなく、なんだろうと感じたそれぞれの方達に答えをお任せしたいとのことでした。



研究会では6つのシンポジウムを企画しました。内容は「診断・治療」「リハビリテーション」「医療の移行に関する課題」の治療にかかわるもの、「入院・在宅療養生活の質」「ボランティアの存在」の療養生活の支援のあり方、「教育・就労」等の社会参加に関する取り組みなど多岐にわたりました。また一般演題には76題の応募があり、発表者は医療職、福祉職、在宅支援者などの多職種におよびました。シンポジウム同様、発表内容は医療・ケア・療養生活・在宅支援・家族支援・レクリエーション・趣味・就労・就学等と様々な分野におよび、それぞれ特色のある研究と実践が報告されました。研究会期間中に参加者がお互いの知見や知恵に刺激を受け、それぞれが筋ジストロフィー患者さんへの新たな支援の視点を広げ、具体的な実践方法を学ぶ貴重な機会となりました。このように様々な職種の多方面にわたる発表は本研究会の大きな特徴ですので、これをつなぐことが

できたことも意義深いと思っています。

最後になりましたが、準備や当日までの運営、研究会にご支援いただいたすべての方々に感謝し、研究会で学んだことを糧にこれからも筋ジストロフィー医療に貢献していきたいと思っております。



日本筋ジストロフィー看護研究会第6回学術集会を終えて

看護部長 永田 智雅

「バトンをつなぐ」をテーマとして、日本筋ジストロフィー看護研究会第6回学術集会を金沢市にある石川県文教会館で平成30年10月27日（土）に開催いたしました。筋ジストロフィー医療研究会との共催も3年目となり、北は北海道から南は沖縄までたくさんの筋ジストロフィー看護に携わる方々にご参加いただき、参加人数は354名になりました。



学術集会の午前中は2つの会場に分かれて、日常生活に関すること、出産育児、看取り、QOL向上など多岐にわたる23題の発表について、NHO医王病院の松本喜代美さんとNHO東京病院の宗方麻理さんの座長のもとで、すばらしい研究発表と討論が行われました。

午後からは交流研修「筋ジストロフィーの看護を語る会」とワークショップ「筋ジストロフィーの看護を研究しましょう」が開催されました。「筋ジストロフィーの看護を語る会」では職位毎でグループワークが行われ、日々の看護や悩んでいることについて活発な意見交換が行われました。「筋ジストロフィーの看護を研究しましょう」では、鳥取看護大学の小村先生が参加者にきめ細かいアドバイスを下さいました。

総会では、中村州子会長より日本筋ジストロフィー看護研究会の成り立ち、看護研究会としての独立したプログラムは今回が最後となること、来年度から医療研究会へ発展統合される旨の説明があり、涙する場面もありました。先輩方が築き上げた看護研究会の思いはつながったと思います。

今回の抄録集の表紙は、医王病院に入院している患者さんが「金沢と秋」をテーマに描いたものです。金沢の地に全国の皆様をお迎えして、日本筋ジストロフィー看護研究会第6回学術集会を無事終えることができましたことをご報告するとともに、ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。筋ジストロフィー看護の醍醐味や卓越した技のバトンをつなぐことに少しでも貢献できたなら望外の幸せと思います。



国立病院総合医学会

教育担当師長 八反 美子

国立病院総合医学会が、11月9日、10日に神戸で開催されました。

国立病院機構、国立高度専門医療研究センター、国立ハンセン病療養所の職員が一堂に会し、「多様性のなかに個が輝く-私たちの医療を推進します-」をテーマに、日々の取り組みなど発表し、情報交換を行いました。



当院からも23演題発表を行い、そのうち1題がベスト口演賞、4題がベストポスター賞を受賞することができました。またシンポジウム「筋ジストロフィー医療～高い専門性と連携のこれまでとこれから～」 「働き方改革を進める中で個が輝くための人材を考える」にシンポジストとして参加しました。

今回の学会のテーマでもありました、「多様性」を持って患者さんおひとりおひとりに寄り添い、思いを尊重した医療が提供できるよう、今まで培われた医療、看護などを後世につなぐとともに、新しい医療への可能性を日々の患者さんとの関わりを通じ研鑽していきたいと思えます。

総合医学会受賞者

ベスト口演賞	
朝川美和子	呼吸不全をきたし人工呼吸器導入となった顔面肩甲上腕型筋ジストロフィーの1例
ベストポスター賞	
駒井 清暢	非侵襲的補助換気療法管理下筋委縮性側索硬化症における肺病変の特徴
吉田 幸	国立病院機構医王病院における特定行為実践看護師の導入と活動内容の報告
倉野 正志	東海北陸国立病院管理栄養士協議会新人教育研修プログラムについて(1)
池島 守	重症心身障害児者の発達環境向上のための「関わり自己評価」(試案)を実施して





入院中の子どもたちも 継続的な教育が受けられます！

- 石川県における病弱教育を担う特別支援学校は、医王特別支援学校、及び小松みどり分校です。
※病弱教育とは、何らかの病気により長期にわたって医療（入院・治療）を要する子どもたちへの教育です。
- 医王特別支援学校は、隣接する医王病院に入院しながら教育を受けることができる県立の学校です。
- 個々に応じて、学習空白や遅れを補う教育をしていきますので、安心して入院し治療できます。
- 医王特別支援学校には、小学部、中学部、高等部、分教室、病院訪問教育があり、希望に応じて進学・就労などの進路指導も行っています。

< 医王特別支援学校の様子 >

教育の日講演会

11月7日(水)、隣接の医王病院より心理療法士・多田淑央先生をお招きして、「心理療法ってなんでしょう」という演題でお話をうかがいました。

本校以外からも3名の参加者があり、わかりやすく心に響くお話は、今後の実践に役立つとても有意義なものでした。



(小中高)お楽しみ会

今年最後の自立活動で「おつかれ～の会」をしました。二組に分かれて図書室、音楽室を清掃した後、トランプ・オセロ・人生ゲーム・バスケットボールをして楽しみました。お互いにコミュニケーションを取り合うことができました。バスケットボールではみなさんの生き生きとした姿、いい笑顔が見られました。



分教室 冬のお楽しみ会

今年もベッドにツリーを飾って冬のお楽しみ会が行われました。トーンチャイムと鈴の演奏や歌とダンスで楽しい気分になった後、サンタさんがHO!HO!HO!と登場。きれいに光るグッズとお友達からの素敵なカードをプレゼントしました。プレゼントやカードをじっくり見たり、「クリスマスクリスマス」の曲に合わせて吸引のチューブ音を大きくならしたりする児童生徒もいました。



ここでは紹介しきれなかった行事、授業の様子などがたくさんあります。日々の児童生徒の授業、行事の様子や自然に囲まれた校舎の様子などを学校ホームページで紹介します。

「石川県立医王特別支援学校HP」は、
<http://www.ishikawa-c.ed.jp/~iouxx>
パソコン、携帯電話等からご覧いただけます。
ぜひご覧ください！



～ 外来診察のご案内 ～

【診察時間】

午前 診察受付/午前8:30～11:30
診察時間/午前9:00～正午

午後 診察受付/午後3:00～4:30
(小児科のみ) 診察時間/午後3:00～5:00
(予防接種の方は午後3:00～4:30)
※午後の一般内科は休診です

【休診日】土曜・日曜、祝日

●小児科外来担当

	診療科	月	火	水	木	金
午前	一般	中村	梅	中農	丸箸	大野
午後	一般	脇坂	梅	村岡	山田	横井

●内科外来担当

	診療科	月	火	水	木	金
午前	一般内科	高橋(1.2.3.5週) 本崎(4週)	田上	柴田	朝川(4週) 本崎(1.2.3.5週)	田上
	神経内科	朝川	駒井 本崎	石田 高橋	駒井・柴田	石田
	呼吸器内科		田上			田上

●皮膚科

	診療科	月	火	水	木	金
午前	皮膚科	担当医				担当医

●専門外来(要予約)

<小児心身症> 大野
<言語> 中村・脇坂・横井
<発達/神経/てんかん> 脇坂・横井
<重症心身障害児> 丸箸
<筋ジストロフィー> 大野・脇坂
<肥満> 山田

～ 患者さんの権利と義務 ～

患者さんは誰でも人間としての尊厳を大切にされ、医療を受ける権利を有します。また、医療は患者さんと病院職員が、お互いの信頼関係に基づき共に作り上げていくものです。したがって患者さんには医療に積極的に参加していただくことが必要です。

当院はこのような考えに基づき、下記の「患者さんの権利」を尊重して医療を提供いたします。また患者さんは「患者さんの義務」を果たされるようお願い致します。

患者さんの権利

1. 患者さんは良質な医療を公平に受ける権利を有します
2. 患者さんは病気に関する情報や検査・治療についての説明を聞き、自分の受ける医療を選択できます
3. 患者さんは個人情報保護される権利を有します
4. 患者さんはいつでもカルテ開示を求める権利を有します
5. 患者さんはいつでもセカンドオピニオンを求める権利を有します

患者さんの義務

1. 患者さんには病院の諸規則を守る義務があります
2. 患者さんには自ら病気を治そうと努力し、また病気に関し病院職員の指示を守る義務があります
3. 患者さんには他の患者さんの治療や検査、快適な療養生活に支障を与えないように配慮していただく義務があります
4. 患者さんには当院での入院治療が必要でなくなった時には退院頂く義務があります
5. 患者さんには医療費の外、利用契約に基づく一部負担金などを支払う義務があります

医師および医療従事者の権利

医師および医療従事者は、自らの良心や医療倫理に相反することに対して、患者さんからの要求があっても拒否する権利があります

～ 医王病院 出前公開講座～

認知症の基礎知識と早期発見のポイント

医王病院では毎年出前公開講座を行っております。本年度のテーマは、「認知症の基礎知識と早期発見のポイント」です。講座ご希望のグループなどがございましたら、お気軽に医王病院管理課までご連絡ください。TEL076-258-1180 (内線2100)



職員募集

詳しくは人事担当までお問い合わせください。



独立行政法人 国立病院機構 **医王病院**

〒920-0192 金沢市岩出町二73-1 TEL.076-258-1180 FAX.076-258-6719 <https://iou.hosp.go.jp/>

- 交通アクセス
- ・JR金沢駅よりJRバス(福光行、田ノ島行、中尾行)で30分、医王病院前下車
- ・IR森本駅より徒歩15分 ・北陸自動車道 森本ICより車で5分 ・山側環状線より車で5分

●発行者 医王病院 ●発行人 駒井清暢 ●発行日 平成31年1月15日 ●印刷所 株式会社ハクイ印刷

この広報は高精細340線で印刷したものです。



この印刷物は、E3PAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
E3PA:環境保護印刷推進協議会